



■研究課題名：
注意欠如多動症における問題解決支援への認知教育的アプローチ
■研究者名、所属：岡崎慎治 人間系
■研究分野：障害科学
■キーワード：発達障害，認知教育，生体反応計測

#### 【研究の背景・目的】

本研究は、認知発達への教育的支援アプローチとしての認知教育の観点から、神経発達症群とりわけ注意欠如多動症における問題解決の評価と支援について、行動面からの評価と生体反応計測を通じた評価の両面から検討し、認知教育的アプローチの可能性について検討した。具体的には、問題解決を要する課題遂行場面における問題解決過程の評価とその支援に関して、①評価のための課題及び場面の選定、②選定された課題、場面における行動評価と生体反応計測評価を主に検討し、③評価に基づくパフォーマンスの不均一性を担保する評価・支援の試行に至る知見を得ることをめざした。

#### 【研究の概要・成果等】

これまでの行動指標と生理指標を用いた発達障害に関連する認知情報処理過程の検討 (Ex. Okazaki et al., 2004, Clin Neurophys 等) と、認知特性評価とこれに基づく指導支援の検討 (Ex. DN-CAS 認知評価システム等) の両面から発達障害児者への認知教育 (Cognitive Education) 的アプローチを検討してきた。その中で、発達障害における脳機能の不全を反映した処理速度の低下や強度 (Intensity) の不十分さとそれによる個人差の大きさ、パフォーマンスの不均一性 (Heterogeneity) を考慮すること、方略の利用を含めた補償的な処理・代替的な処理による補いによるパフォーマンスの近似化あるいは向上の可能性あることをそれぞれ指摘した。

これらをふまえ認知教育における教育，すなわち指導者と学習者がともに個々の目的と全体の目的を達成するために相互依存的に取り組む共同作業になること，知識と学習のプロセスが活動の中で同じように強調される活動であることに合致する活動として問題解決課題場面を想定した。また，そのような場面における指導者側と学習者側の双方からの行動および生体反応計測の検討可能性について提案するとともに，発達障害児への指導支援における感情モニタリングの指導支援の実践例を紹介した。

#### 【期待される意義や波及効果等】

ADHD 等の発達障害児・者への認知教育的アプローチを発展させていく上での理論的背景に根ざした，個々の子どもに特化した支援を検討することについてそれぞれその基礎的な知見の一端が得られたと判断できた。これらをふまえ，今後の検討を通してより個々の認

知特性を考慮した指導支援への拡大に至ること，発達障害に限らずより多様な指導支援への応用可能性を指摘した。

【主な論文・著書・ホームページ等】

前川久男・中山健・岡崎慎治（訳編）（2007）日本版 DN-CAS 認知評価システム．日本文化科学社

【その他、人間系 HP に掲載を希望する事柄・アピールしたい点等】

本報告に係る研究実施の一部に平成 30 年度人間系研究支援プログラムの助成を受けました。ここに記して深謝申し上げます。